

達成すべき児童生徒の姿を明確にし、思考の状況を生かした授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は授業の例と対応

- ① 単元で育成する資質・能力とそれらを身に付けた児童生徒の姿の明確化
 - ・適切な単元の目標と評価規準の設定
 - ・単元の目標や評価規準を踏まえた、一単位時間のねらいと評価規準の設定
 - ・単元における本時の位置付けの明確化
- ② 児童生徒が学びのつながりを意識するための見通しと振り返りの工夫
 - ・児童生徒が既習の知識や方法を想起し、それらを用いて問題解決に向かうことができるような教師の関わり
 - ・児童生徒が問題解決の過程を振り返り、学び合いの成果等を実感することができる場面の保障
- ③ ねらいや児童生徒の状況を踏まえた学び合いにするための工夫
 - ・児童生徒のつまずきを想定した授業構想
 - ・授業中の見取りを生かした展開（意図的な指名、ゆさぶりの発問、問い返し等）
 - ・不十分な考えや誤答を生かした比較・検討
 - ・考え相互の関連付けや既習事項との関連付け
- ④ 児童生徒が「分かった」「できた」を実感することができるようにするための工夫
 - ・考えの有用性や簡潔性、一般性などを実感することができる適用場面の設定
 - ・学習状況を踏まえた、児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かす評価の場面や方法の吟味

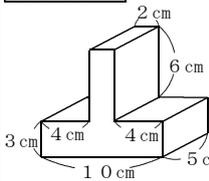
ねらいの達成に向け、児童の思考の状況を生かした授業の例

小学校第5学年 単元名「直方体や立方体の体積」

◇本時のねらい 直方体を組み合わせた立体の体積の求め方を考えることができる。

◇評価規準 直方体を組み合わせた立体の体積の求め方を図形の構成の仕方に着目して考え、図や式を用いて説明している。【思考・判断・表現】（評価方法：評価問題）

評価問題 下のような立体の体積の求め方を図と式を使って説明しましょう。



（解答例）

横に切って二つの直方体に分けて考えた。

下の直方体の体積は $5 \times 10 \times 3 = 150$ 150cm^3

上の直方体の体積は $5 \times 2 \times 6 = 60$ 60cm^3

$60 + 150 = 210$

答え 210cm^3

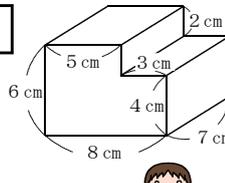
本時に達成すべき児童の姿を明確にすることから、どのような指導をしたらよいかが見えてきます。また、ねらいの達成状況を、どの場面で、どのような方法で評価するのかを吟味しておくことも必要です。①④

問題 右のような立体の体積を求めましょう。

<見通しの場面>



T: このような立体の体積を求めたことはありませんが、似たような学習をしたことはないですか。



S1: 4年生で という形の面積を求めました。



S2: 4年生の学習で使った考え方を、この問題に生かせないかなと思いました。

S3: 面積から体積に変わったけれど、同じような考え方で求められそうです。



これまでの学習で生かせそうなことはないかを問い、課題の解決につながる考え方を想起できるようにします。そして、その時の考え方が使えないかを振り返ることで、解決方法の見通しを共有します。②

<自力解決の場面>



S4: 二つの直方体に分けるにはどうすればよいのかな…。



S5: 式は書けたけれど、計算に自信がないな…。

T: 立体の模型を使って分けてみましょう。



T: 計算が不安だったら、電卓を使って確かめてもいいですよ。



S6: $7 \times 8 \times 4 + ? \times 5 \times 2$
上の直方体の縦の長さが分からないな…。



児童のつまずきを事前に予想し、それらに対する手立てを講じておくことで、自力解決の場面等で適切に指導することができます。また、本時のねらい以外の部分でつまずいている児童には、負担を減らすための方法を提案するなど、状況に応じた支援をします。③

<学び合いの場面>（自力解決時のS6のつまずきを生かして）



S7: 横に切って二つの直方体に分けます。
 $7 \times 8 \times 4 + 7 \times 5 \times 2 = 294$
となるので、 294cm^3 です。



T: どうして上の直方体の縦の長さは7cmになるのですか。誰か説明してくれる人はいませんか。



自力解決の場面で児童のつまずきを見取り、学び合いの場面で意図的に問い返し等を行うことで、協働的な学びの機会とすることもできます。③

<評価問題の解決の場面>



S6: 学び合いで友達の説明を聞いて、体積の求め方や説明の仕方が分かったよ。評価問題は形が違うけど、同じ考え方が使えそうだな。

単元の中で、ある評価規準についてこの時間しか対応していないという場合は、自力解決の場面で指導に生かすための評価をして「努力を要する」状況と判断される児童のつまずきを把握します。そして、学び合いの場面で、児童の協働的な学びを通して指導した上で、最後の評価問題で記録に残す評価を行うなどの工夫が必要となります。④